第 2016-04 号

恵みと真理のニュース

2016 年 1 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私の家族を救ってくださり、苦難を乗り越えるように慰めと力を与えて奉仕する楽しむも下さった主を賛美します

私は経済的に恵まれた家庭で生まれて問題なく育ちました。家庭では父が早くイエス様を受け入れ教会を通いましたが、母は偶像崇拝をしました。父親が私に教会に行こうと誘うと母のところに行って“教会に行くの嫌だ。教会には行かない。”としました。教会に行かなくて友達と映画を見ておいしいものを食べて遊ぶのが楽しかったです。
29歳に結婚して30歳の子を身篭りました。うらやましい事もなく高慢で自分しか知らなかったです。旦那は酒が好きなもの以外には誠実な人でした。新婚生活も幸せでした。どころが、子を産んで全てが変わりました。
かわいい子が障害を持って生まれたからです。空が崩れる絶望感にとらわれました。長い間なぎながら恨みました。“私が何を間違ったので苦難を与えるのか”と恨みと不平不満しました。
子が痛くて急に応急室に運ばれ体と心がとても疲れている時、同じアーパトで住む恵と真理教会の首区域長が私を慰めてくださり伝道しました。
産後憂鬱症まで重なって生きる希望もなく無気力で倒れている私に毎日休まずに来て、聖書の御言葉で十字架の上で罪を贖ってくださり霊的な病気、体の病気を治療して下さり永遠な命を下さる愛を証拠し私と子をため祈ってくださいました。酷い憂鬱症で一日横になっていて食事も配達して食べて太ってしまい健康も悪化された時でした。
首区域長に従って教会へ通い始めました。“　疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。”（マタイの福音書11：28）という御言葉で深い感動を受けました。徐々に心が安定され神様を信じ頼るようになりました。神様に対する信仰と希望が出来て恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ書　41：10）という希望の御言葉を探して覚えました。礼拝を熱心に捧げこのような聖書の御言葉を覚え神様の前で泣きながら心の状態を主に祈ると悲しかったのがなくなり心が暖かくなり平安になりました。不安で空しかった心を聖霊様が開いてくださり神様の平安で満たしてくださいました。
“今まで私が限りなく高慢で世の楽しむたけ従ったことを罪を赦してください。”神様に悔い改めました。赦された確信を得て神様に子供のため祈りました。
“弱い子供の将来を主に委ねます。神様が導いてください。霊肉共に強くしてください。神様の恵みと愛で育つようにしてください。
熱心に礼拝を捧げ神様を仰ぐ私に神様は信仰が強くし心霊が主の喜びで満たされました。
“主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。“（詩篇２３：１）神様の恵みで私のような罪人が救われた事実だけでも喜びと感謝が溢れます。神様は私の子にも権能の手を与えて下さり徐々に健康になるように恵を与えてくださいました。子供が3歳の時に母親が亡くなりましたが亡くなる前に決信の祈りをしてイエス様を受け入れて天国に行きました。
子供の痛みと母の葬式をきかけにして家族一人一人が神様の所に行きました。信仰も心も弱くてなって神様の所を離れた父も私が伝道してカンナン聖殿で信仰生活をしています。神様に限りなく感謝します。
他の家族も神様に対する変らない信仰で救いの恵の中で生きるように祈って努力しています。私がもっと熱心に神様を信じて愛し支えると“　主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”（使徒言行録16：31）御言葉の通り私の家族全てが救いの福を受け主の中で真な平安と幸せを享受することを信じます。
ダウン症候群を患っている子をため首区域長が希望部を勧めました。子供をつれて希望部で奉仕始めました。始めは子供の賛美と振り付けがなれなくてわが子のような心と体が弱い子供達を見守るのが大変で心と力を尽くすことが出来ませんでした。そうするうちに関節リウマチと糖尿と甲状腺機能低下症を患いました。合併症で冬になると体が痛くて起きられなく体が重くて朝起きるのさえ大変でした。 悔い改める祈りをしました。“神様、私を助けてください。私はすることが多いです。希望部で子供を見守るように助けてください。私を癒してください。”と切に祈りましたら神様は、私を癒してくださり新しい力も下さいました。体は不便で痛んでも奉仕を休まなかったです。
休まずに神様に祈って全ての事に感謝しました。子供が歩く事ができて他の大きい病気がないようにいつも守ってくださる神様に感謝して旦那が信仰生活をよく出来て家族のため誠実に役割を尽くすように助けてくださる神様に感謝します。教会で奉仕することが出来て希望部の子供達が私にとっては特別な感謝の理由になり喜びになるので神様に感謝を捧げました。 希望部の子供達がとても純粋で良いです。イエス様がなぜ子供達を愛するか感じられます。希望部の子供達がとても愛らしくて誇らしいです。私が希望部で子供達を支え神様を賛美し神様の愛を話をすると神様の恵みを分かち合うのができて言葉で表現できないほど楽しくて心いっぱいになります。
私の家族達を救ってくださり永遠な神霊な福を下さる神様、弱い子供が私の喜びになり家庭の全てのことが協力して善を与えて下さる神様に感謝と賛美を捧げます。私のため今まで主の心で愛と祈りをしてくださった教役者達と首区域長と区域長を始め多くの聖徒にも感謝します。
礼拝ことに受ける御言葉と恵の聖霊の能力で戦いでいつも勝利しひたすら主を愛します。そして、再び来る主を切に望みいつも喜びながら生きます。ハレルヤ！

［信仰コラム］

特別な機会と見事な選択

＂十字架にかけられた犯罪人のひとりが、「あなたはキリストではないか。それなら、自分を救い、またわれわれも救ってみよ」と、イエスに悪口を言いつづけた。もうひとりは、それをたしなめて言った、。。。＂（ルかによる福音書２３：３９～４３）

人の一生と死後まで重大な影響を与えることがあります。第一は＂持って生まれた星回り＂であり第二は＂見事な選択＂です。イエス様が言われたタラントの比喩は運命と選択を対照して選択の重大さに対するメッセージを聞かせてくれます。誰も運命を無視することはできません。しかし、自分の選択によってこのような運命を変えることや克服することはできます。神様が私達に与えてくださる特別な機会があります。私達はその機会を捕捉して自分のものにすべきです。そうすると運命を変化させることができます。

第一は、イエスキリストを信じられる機会です。最初の人アダムが罪人であるので彼の子孫達は全て罪人として生まれます。これが人間に与えられる運命です。そうして偶像を仕えて神様に逆らう罪を犯しながら生きていきます。罪の支配の下で免れる方法は人間にはありません。しかし、このような罪人達に罪から自由を得るようになる機会が与えられることが様々な時代に数回預言されました。このような預言がイエスキリストがこの世にお越しになり購いの死を死に、死亡から復活なさることで成就されました。罪の許しを受ける機会は正しい人になりとこしえの命を得て神様の子供になることを含めた機会です。このような機会は人生に選択を求める機会です。その選択とはイエスキリストを自分の救い主として信じ、迎接することを言います。人がこの世で生きる間にできる最も福のあり、見事な選択はイエスキリストを信じて迎接することです。

第二は、主に対する忠誠を表せることができる機会です。
神様に向いた忠誠は神様を心の中心に仕え神様のお言葉通りに行うことです。イエス様を心の中心に仕えた人は何よりも神様のお言葉を混雑させることができません。生まれ変わった聖徒は福音を歪曲することをしないことだけではなく、そのようなことを行う人々がキリスト教という名の下で行ういかなる行事にも加わりません。また、逼迫される時にこれを主に対する忠誠を表せる機会に扱うべきです。なお、苦難を受ける時にこれを主に対する忠誠を表せる機会に扱うべきです。欠乏や苦痛がある時、挫折せずに望みを持って耐えながら恨みと不評をしないで感謝する態度は主に向いた忠誠の心から始まることです。全てのことを主に向いた忠誠を表せる機会に扱うことは最善の選択です。このような選択は自分が持って生まれた星回りは変えます。

第三、主の事に励むことができる機会です。
この世で生きる全ての日々が主の事に励むことができる機会です。福音を述べ伝えることは主の事であります。この世で私達ができる事の中で最も偉大で聖なることは福音を述べ伝えることであります。また、苦難を受けた者のためにお祈りして手伝うことは主の事です。また、教会で奉仕することが主の事です。良い事をしようと思い込むといくらでもできます。主の事をする機会が常にあることではありません。有用な手段と力がある時に使うべきです。財物と利口さと力がある時に主の事に励まなければなりません。
人は一生の間数えられない選択をしながら生きていきます。しかし、大体に自分が選択したことが自分が願う結果をもたらすと打ち上げることはできません。しかし、自分が選択して行うことが必ず良い結果をもたらすという神様の保証を受けることができることがあります。そして、自分の運命を福があり、光栄であるように変えることができる機会があります。イエスキリストを信じられる機会、主に対する忠誠を表せる機会、主の事に励むことができる機会です。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

驕慢な精神を治める秘訣

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

谷から 流れ下がる清い水がずっと湖に流入されれば生命力の一杯な湖になります。 一方に工場から出る廃水が流入されれば悪臭が出て魚が生きることができない死んだ湖になります。いつも生命力があふれる湖で維持されようとすれば汚水、廃水が流入されることができないように労力して管理してくれなければなりません。このように情緒上の汚水、廃水やはり私たちの心の湖に流入されることができないようにしなければなりません。 今日は情緒上の汚廃水の中のひとつの驕慢の精神を治める道に関してよく見ます。 驕慢は人格的な対象との関係で持つようになる心の状態でまた言行で現われるようになります。 その人格的な対象には他人だけではなく神様があります。

先ずに、人間関係で驕慢に関してよく見ます。

自分が驕慢であると思う人は捜すのが難しいだろう。だから驕慢な時に生ずる現象が何やら分かってこれで診断して見なければなりません。

第一は、人が驕慢になれば度が外れた優越感で他人を見下します。

人々の性格と気質は千差万別です。 社会的な地位と身分、経済状態も多様です。 DNA の同じ人は一人もないです。 これは万物を作った神様のみ旨です。 私たちは区別と差別があるのを認めてお互いに尊重しなければなりません。ところで驕慢の精神が入って来れば好い気になって他人を見下げます。 馬鹿にして見下します。 驕慢の精神が生じないようにするためには自分より弱くて不足な人を見る時あわれんで思わなければならないし、自慢せずに神様の恵みに感謝いたさなければなりません。

二番目は、驕慢になれば正し忠告を受け入れないです。

正し忠告を受け入れない理由は自らなったことで分かるからです。 これは自分の欺瞞です。 ガラテヤ人への手紙, 6 章 3 節に記録されるのを “もしある人が、事実そうでないのに、自分が何か偉い者であるように思っているとすれば、その人は自分を欺いているのである。” と言いました。 驕慢で自らなったと思えば食器が小さくてこれ以上満たすことができなくなって発展がとどまるようになります。

三番目は、驕慢になれば自分の分を越えるをわきまえることができないです。

分を越えるは自分の境遇に適当な限度です。民数記 16 章に出るゴラとタダンとアビラムの反逆は自分の分を越えるを越すことで不幸にあった事件です。 ゴラとタダンとアビラムがモセとアロンに言うのを “モーセとアロンとに逆らって言った、「あなたがたは、分を越えています。全会衆は、ことごとく聖なるものであって、主がそのうちにおられるのに、どうしてあなたがたは、主の会衆の上に立つのですか」。” として神様が立てたモセとアロンに反旗をあげました。 するとモセが彼らに言いました。

“それで、次のようにしなさい。コラとそのすべての仲間とは、火ざらを取り、その中に火を入れ、それに薫香を盛って、あす、主の前に出なさい。その時、主が選ばれる人は聖なる者である。レビの子たちよ、あなたがたこそ、分を越えている」。” 分を越えている人が誰だか神様の公義の判決を受けるためにモセとアロンそして一党はエホバの前に立ちました。 その時ゴラとタダンとアビラムの家族が立っている地が割れて人々と品物があっという間に地の中に落ちて入りました。 驕慢になればこのように分を越える度が外れる考えと行動をするようになってそれ
による応分の対価を支払うようになります。

次は、神様との関係での驕慢に関してよく見ます。

人々は対人関係での心得や処身に限定して驕慢の概念を持っています。 これは重大なエラーを犯すのです。対人関係より神様との関係での驕慢に対して正し概念をはっきりと分からなければなりません。 聖書には神様との関係で驕慢が何であり、その驕慢がもたらす悲劇的な結末がどうかを詳らかに記録しておきました。

第一は、天地万物を創造した神様を仕えないことが驕慢です。

被造物である人間が自分を存在するようになさった創造主を否定することは驕慢の根です。天地万物が長年の歳月と偶然によって存在するようになったし人は進化の結果物だと主張する人は創造主を認めないように決心した人です。ローマ人への手紙, 1 章 20 節に記録されるのを “神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。” としました。 創造主を信じる人は偶像を仕えないです。 被造物を仕える事をしないです。 被造物を向けて敬排して福を祈る行為は恥かしくて愚鈍で創造主の神様を不名誉にさせる驕慢の行為です。ローマ人への手紙, 1 章に記録されるのを “なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである。”（ロム 1:21-23）としました。創造主を認めないことと偶像崇拝は神様の対敵にならせる驕慢です。 聖書に神様は驕慢の者を対敵すると言いました。

二番目は、イエスキリストを迎接しないことが驕慢です。

聖書には “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており”（ロム 3:23)と言ったし、“義人はいない、ひとりもいない。”（ロム 3:10)で宣言されました。 自分は罪がないとか、自分の行為で義のあるようになることができると思う人は自分の実際が分からない者です。 それとも自分の良心を欺く偽りされた者です。 ヨハネの第一の手紙, 1 章 10 節に “もし、罪を犯したことがないと言うなら、それは神を偽り者とするのであって、神の言はわたしたちのうちにない。” と言いました。 だから自分が神様の前に罪人であることを認めないことが驕慢です。 神様は罪人を救いしようと彼のイエスキリストを世の中に送りました。 そして私たちの罪をあがないさせました。 そしてイエスキリストを信じる者は誰も罪の赦しを受けて義のあるようになります。 ローマ人への手紙, 3 章 22 節に “それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。” したし 24 節には “彼らは、価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。” と言いました。 自ら義のあるようになろうとする努力をすることと救世主であるイエス様を迎接しないことが驕慢です。 “「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。” イエス様のお言葉と違い考えこともやはり驕慢です。 聖書に 人の心の高ぶりは滅びにさきだち、謙遜は栄誉にさきだつ。 と言いました（箴言, 18 :12）

三番目は、神様の光栄を横取りするのが驕慢です。

ペテロの第一の手紙, 4 章 11 節に記録されるのを “語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。栄光と力とが世々限りなく、彼にあるように、アァメン” と言いました。 あるものなどを推し量りながら感謝するのが神様に栄光を持たせるのです。私たちが持ったことと享受するすべてのものがすべて神様の贈り物であり恵みです。 神様が供給する力と知恵ですべての事を行っているということを認めないとか無視して自分を誇るのが驕慢です。 自分が所有して享受するすべてのものが神様の物で神様が与えられることを認めないとか感謝しないことは神様の光栄を横取りする驕慢です。 神様の光栄を横取りするとか神様に栄光を持たせなければ、捨てられることを受けるようになるとか賞を失くすようになります。

四番目は、神様の約束を信じないことが驕慢です。

神様の約束を不信して神様のお言葉に配置される物を言うのが驕慢です。 神様の約束を無視すれば神様がその人を無視してしまいます。アラム国がイスラエルを侵攻して首都サマリア城を長期間かこみました。 サマリア城の中に飢えが極甚になりました。 王が警護長官を同行とエリシャに行きました。 エリシャが王に言うのを
“「主の言葉を聞きなさい。主はこう仰せられる、『あすの今ごろサマリヤの門で、麦粉一セアを一シケルで売り、大麦二セアを一シケルで売るようになるであろう』」。” その時に警護長官があざ笑いながら言いました。 “「たとい主が天に窓を開かれても、そんな事がありえましょうか」。エリシャは言った” エリシャが警護長官を向けて言いました。 “「あなたは自分の目をもってそれを見るであろう。しかしそれを食べることはなかろう」” その晩に神様が驚きべきを行いました。 ハンセン病患者の四人が敵陣を向けて進んだが神様が彼らの足音をアラム軍隊には大軍台の進撃する音で聞こえさせました。 ここにアラム軍事が寝て起きて皆が逃げてしまいました。 その朗報をきいたサマリア城の民が種を持って来ようと走って行きました。 この時に警護長官は群衆を統制しようと思ってから踏まれてたまらなかったです。 神様の約束を無視する言動が驕慢です。 神様の約束を無視すれば神様から無視されて神様の恩寵を受けることができなくなります。

聖徒の皆さんは驕慢の精神の立ち入る余地がないように皆さんの心を徹底的に管理してください。 そして人との関係ばかりでなく神様との関係で謙遜な人と認められるように願いします。